

	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	Changes in passive stiffness and length of the semitendinosus muscles in rats with arthritis-induced knee flexion contracture	共著	令和5年6月	Clin Biomech (Bristol, Avon) 107: pp106026	関節拘縮における筋の性質の変化の役割についてラット膝関節拘縮モデルを用いて検討した。その結果、筋の長さではなく、筋の硬さ(stiffness)が拘縮形成に関与していると考えた。(Kaneguchi, A. <u>Yamaoka K</u> , Ozawa, J.) 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2	(学術論文) Interactive effects of exercise and sleep on frailty severity in community-dwelling older adults: a cross-sectional study.	共著	令和4年1月	J Rural Med 17(1): 21-28.	「東広島市健康づくりに関するアンケート調査」を東広島市の住民 20 歳以上 5000 人を対象に実施。65 歳以上の高齢者に対して、順序ロジスティック分析をもちい、フレイル重症度を説明する変数を検索した。そのうち身体的フレイルについては、主観的健康観が大きくフレイルの重症度に影響を与えることが判明した。一方、睡眠の質が悪いことがフレイルになる確率を上げる因子であるとともに、運動習慣と睡眠の質のいずれもが悪い場合は他の因子とくらべて突出した効果によってフレイルの重症度を増すことが示された(総ページ数:8 頁)。(Umehara T, Kaneguchi A, Yamasaki T, Matsuura A, Kito N, Tanaka H, <u>Yamaoka K</u> .)共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
3	(学術論文) A rat model of hip joint contracture induced by mono-articular hip joint immobilization.	共著	令和3年9月	Clin Biomech (Bristol, Avon) 90: 105487	不動化によるラットの股関節拘縮モデルを新たに作成した。4 週間の不動化により、正常と比べ 29° の関節可動域の減少がみられた。その要因として大腿筋膜張筋、腸腰筋などの筋性拘縮が見られたのに対して、関節包や靭帯などによる関節拘縮は見られなかった。股関節の拘縮は筋性拘縮が主な要因であると考えられた。(総ページ数: 7 頁) (Minamimoto K, Ozawa J, Kaneguchi A, <u>Yamaoka K</u> .) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4	(学術論文) Intra-articular injection of mitomycin C prevents progression of immobilization-induced arthrogenic contracture in the remobilized rat knee	共著	令和2年2月	Physiol Res 69(1): pp145-156	ラットを3週間、膝屈曲位で不動化し、屈曲拘縮を作成した。その後再運動をさせると、線維化が進み、線維性の拘縮が進展した。しかし細胞増殖を防ぐマイトマイシンCを再運動時に投与すると線維性の間接拘縮を防ぐことができた。(総ページ数: 12 頁) (Kaneguchi, A. Ozawa, J. <u>Yamaoka, K</u>) 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5	(学術論文) Low-Level Laser Therapy Prevents Treadmill Exercise-Induced Progression of Arthrogenic Joint Contracture Via Attenuation of Inflammation and Fibrosis in Remobilized Rat Knees	共著	令和1年6月	Inflammation 42 (3):pp857-873	ラットを3週間不動化後、運動(歩行)と歩行+レーザー治療による間接拘縮の回復を観察した。歩行により線維性の間接拘縮は悪化した。レーザー治療により歩行による線維性拘縮の悪化を防ぐことができた。(総ページ数: 17 頁) (Kaneguchi, A. Ozawa, J. Minamoto, K. <u>Yamaoka, K</u>) 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能